



26 百鳥図 伝銭選 一幅

絹本着色 中国・明時代(十六世紀)  
本紙一五二・〇×一八五・〇

鳳凰は、中国で誕生した空想上の霊鳥である。梧桐の木に止まり、竹の実を食するという。雄が鳳、雌が凰で、羽毛は五色、群鳥を従えとされる。漢代には聖王の瑞祥とされ、天下太平を寓意し、尊さの象徴として装飾意匠にも多く用いられる。

本図は、まさしくその鳳凰が群鳥を従え、旭日を拝する図である。鳳凰をはじめ、孔雀、鶴、雉、鶯、鳩などの様々な鳥が水辺の梅竹を背景に描かれている。鶴は長寿、孔雀は九徳を備える文禽であるなど、描かれる鳥それぞれには様々な寓意がある。また鳳凰の足元には百花の王である牡丹が配され、岸边には薔薇(長春花)が描かれるなど、本図の中には、多くの吉祥の寓意が込められている。

本図の鳳凰を見ると、すぐに若冲の鳳凰が思い浮かぶ。若冲の鳳凰の方が、なまめかしさがあるが、色彩感には共通性が窺える。特に、「旭日鳳凰図」(No.1)は、こうした図から若冲独自の図様へと展開したものでなかるうか。本図は妙心寺に伝来した作品であるが、京都の寺院には若冲が接することができた多くの中国画があった。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections